

(その三)

工場又は事業場の名称	日清紡ケミカル株式会社 旭事業所
------------	---------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	5 1								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1：非溶剤系塗料の選択

対策2：吸着式処理装置による排出抑制(装置の維持・管理を強化)

備考 3 (2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 9	9 9	3 9	5 1					

(その四)

工場又は事業場の名称	日清紡ケミカル株式会社 旭事業所
------------	---------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策
(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度						
	平成13年度						
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)		1	2	0	0	0	0
				× 10			
排出等の量 (kg/年度)			3	1	0	0	
処理回収率 (%)				9	7		

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)

--	--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (使用量 - 排出等の量) / 使用量 \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
1	1	2	9	9					

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1 : メチクロの事業所内使用禁止 (ISO14001目標 達成済み)
対策2 : 発泡機洗浄作業変更 (低揮発性溶媒へ) : 中止 (保全時ホースは廃棄)
対策3 : 塗装必要な商品の生産販売中止

備考 この項の提出は任意であること。

(その四)

工場又は事業場の名称	河村産業株式会社 かずさ工場
------------	-------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度			
	平成16年度			
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)			7700	
			×10	
排出等の量 (kg/年度)			68	
処理回収率 (%)			99	

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)			

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5	6								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	日本ドラム株式会社 富津工場
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 1	2 2	2 3	2 9	3 1	3 3	3 9	5 1	9 1	9 9

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

昨年と同様に炭化水素除去装置・密栓型塗装ブース・オートカラーチェンジャー・ 塗装焼付型炉・ホットエアレス塗装方式により揮発性有機化合物の排出量を50% 以上の削減を実施しております。
目標年度の削減策定について 今年度については計画目標に対し13.3%の削減を達成致しました。今後も 増産に伴い使用量と排出量も増加傾向にありますがLCAの管理強化、不良低減等 を徹底し削減対策に努めて参ります。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 1	2 2	2 3	2 9	3 1	3 3	3 9	5 1	9 1	9 9

(その四)

工場又は事業場の名称	日本ドラム株式会社 富津工場
------------	-------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度				
	19年度				
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	6	5	0	0	0
	× 10				
排出等の量 (kg/年度)	3	3	0	0	0
処理回収率 (%)	4.9				

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)				
---	--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	1	3	1	3	3	3	9	5	1

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

平成18年10月の工場設立時から炭化水素除去装置・密閉型塗装ブース・オートカラーチェンジャー・塗装焼付山型炉・ホットエアレス塗装方式を設置し、操業と同時に50%以上の揮発性有機化合物の削減を実施しています。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	ハヤシレピック株式会社 第5事業部
------------	----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	1	2	2						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

生産量も増加し、使用金属が変わり、製品重量が増加したため、洗浄方法が変わり溶剤の使用量が増加したと考えられます。
今後、工程の改善や溶媒の見直しにより発性有機溶剤の削減に努めます。また新規設備(環境配慮型設備)の導入検討も必要と思われる。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	1	2	2						

(その四)

工場又は事業場の名称	東洋スチレン株式会社 君津工場
------------	--------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度			
	平成12年度			
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	1	4	×10	8
排出等の量 (kg/年度)			150	
処理回収率 (%)			100	

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)				
---	--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{(使用量 - 排出等の量) / 使用量\} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
3	2	5	3						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 荏原製作所 富津事業所
------------	---------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 1	1 2	2 1	2 9	3 9	9 9				

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

排出量を工場移転前(平成21年度)と比べて30%以上削減を維持する。
1. 塗料対策(11, 12)
低VOC塗料: 標準化、客先への提案、実機への適用、評価
2. 溶剤対策: 蓋閉めの徹底(21)
3. 洗浄剤対策
洗浄方法の工夫・変更(29)、高圧蒸気洗浄の使用頻度向上(29)
洗浄工程の廃止(29): 防錆方法の変更
4. その他の対策
廃棄物管理(99): 残液の回収、残液のVOC含有量の算出
塗料庫の入出庫管理の徹底(99)、エアラップガンの使用(39)

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 1	1 2	2 1	2 9	3 9	9 9				

(その三)

工場又は事業場の名称	新日化エポキシ製造株式会社 千葉工場
------------	-----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3	2	2	9	5	3				

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

基本的に既設は、下記の内容を採用した設備となっております。
① 常温より高い温度の溶剤排気ガス系統に対しては、凝縮コンデンサーと、更に低温冷媒を通水したアフタークーラーを増設し、大気への溶剤排出を防止しています。
② 凝縮コンデンサーの水量の適正化により、大気への溶剤排出量を削減しています。
③ 溶剤回収工程の手順見直しを実施している。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3	2	2	9	5	3				

